兵庫・深田(ふかだ)遺跡

1　所在地　兵庫県尼崎市東園田町

2　調査期間　一九九六年（平8）二月〜一〇月

3　発掘機関　尼崎市教育委員会

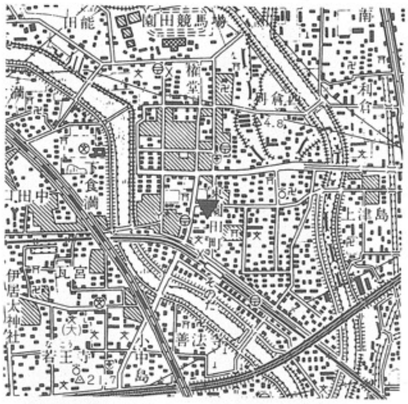
4　調査担当者　益田日吉・高梨政大

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　弥生時代〜室町時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、尼崎市の北東部、阪急園田駅の北約三〇〇mの猪名川と藻川の間の沖積地に位置する。調査は店舗の建築工事に先立つもので、建物予定地について発掘調査を実施した。



（大阪西北部）

調査の結果、現在の表土下〇・五〜一・二mの深さで、弥生時代後期から室町時代にかけての各時代の層を三ないし五層検出し、それぞれの時代の層に対応して弥生時代の方形周溝墓九基、土器棺墓五基、平安時代から室町時代にかけての各時代の井戸一九基、掘立柱建物一九棟、土坑三〇基など多数の遺構を検出した。

遺物は各遺構及び遺物包含層から整理用コンテナ約三〇〇箱分出土しており、特に平安時代から鎌倉時代にかけての土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・陶磁器などの土器類が多数を占めている。

なお、底部外面に「大」と記された土師器杯、「嶌」と記された土師器杯・須恵器杯が八世紀末頃の井戸から一括出土したほか、判読不能な文字が底部外面に記された土師器杯・白磁椀などの墨書土器が遺物包含層などから数点出土している。

木簡は、井戸（SE二〇四）の掘形から一点出土した。SE二〇四は、上部直径約一・八m、底部直径〇・八m、深さ約〇・九mの円形の掘形を掘り、最下部に直径約五〇cmの円形の曲物を井筒として据え、その上には四隅に支柱を立て、横桟を渡し、その外側に縦板を方形にめぐらした、いわゆる方形隅柱横桟型の井戸である。掘形内から出土した土師器・須恵器・瓦器などの遺物から一二世紀後半に構築されたものと考えられる。

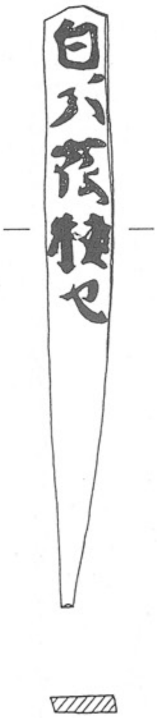
8　木簡の釈文・内容

(1)
・「白□□□□〔也ヵ〕」
・「［　　　］」　　128×13×3　051

長方形の材の下端を尖らせた〇五一型式である。頭部は圭頭。表

面五字目は「也」とも読める。表面二字目から四字目は判読不能である。三字目は、あるいは「苽(うり)」か。裏面の一部に墨の残存が認められるが判読不能。

（益田日吉）



(1)

兵庫・安倉南(あくらみなみ)遺跡

1　所在地　兵庫県宝塚市安倉南一丁目

2　調査期間　一九九五年（平7）一一月、一二月〜一九九六年三月

3　発掘機関　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4　調査担当者　山本高照・北原　治・中村　弘

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　平安時代末〜室町時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は阪神淡路大震災復興に伴うもので、調査方法については遺跡が破壊される部分のみの調査となり、調査区は一〇本のトレンチ状となった。よって、遺跡の全体は把握できていない。

（大阪西北部）

検出された遺構は平安時代末から室町時代まで存続した集落跡である。遺構の種類と数は、建物が三棟、